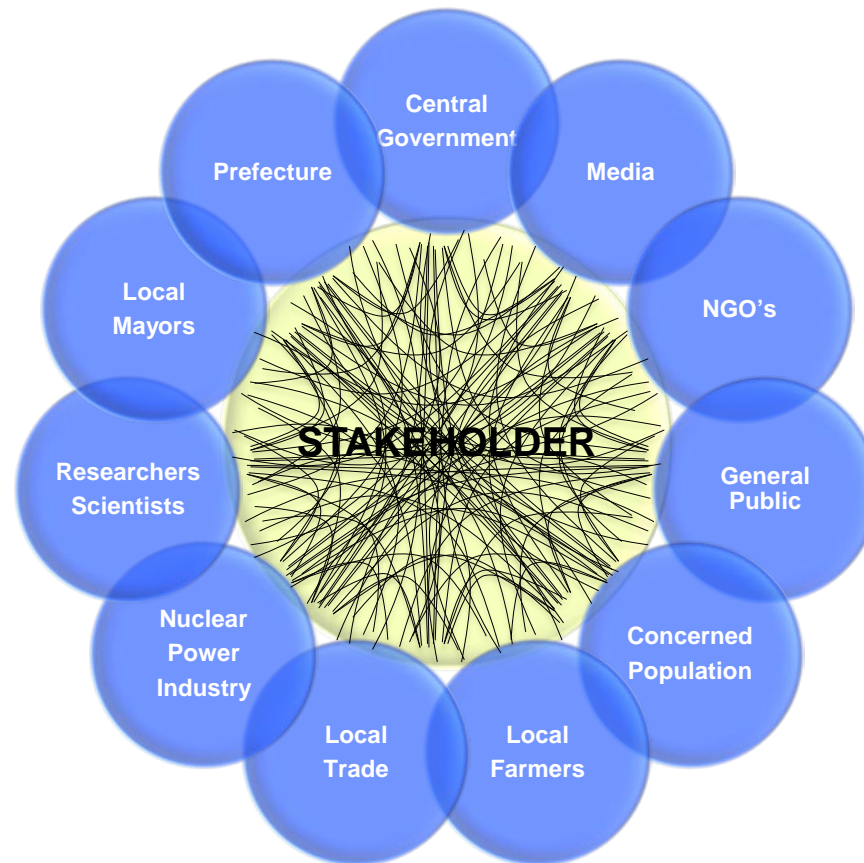


CRPPHの ステークホルダーの参加への貢献 (仮訳)

Dr. Michael Siemann, Dr. Ted Lazo
放射線保護及び放射性廃棄物管理部、
OECD原子力機関

ステークホルダー 何かに利益又は関心を持っている個人



CRPPHのステークホルダー参加作業

放射線防護及び公衆衛生委員会は複雑な放射線防護状況におけるステークホルダーの参加による意思決定作業について長い歴史を持っている。

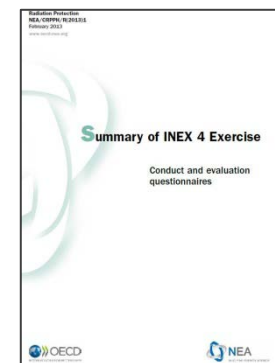
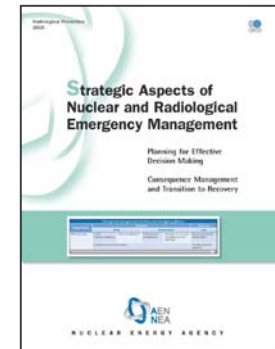
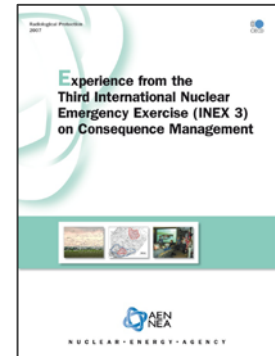
○

- 国際核非常事態演習
- Villigen ワークショップ
- チェルノブイリ関連作業
- RP 意思決定ワークショップにおける科学と価値
- 核非常事態後の管理のためのステークホルダーの参加

INEX からの主要な教訓

NEA は1992年以降、4回の国際的な原子力演習を組織しており、また2015~2016年のINEX5を計画している。我々はこれらから以下のステークホルダーの参加からの教訓が学んでいる。

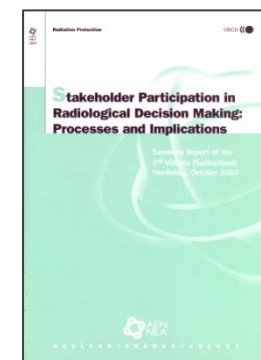
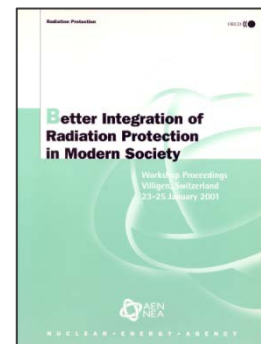
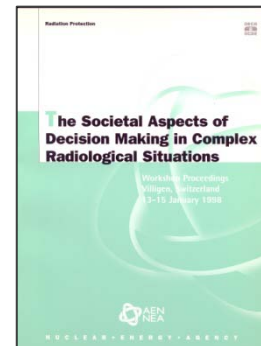
- 各国は非常事態の管理と比較して回復に対する準備が少ない。
- 非常事態の計画、準備及び管理へのステークホルダーの参加は必須である。
- 回復の計画及び実施はステークホルダーの参加を必要とし、それは各ケースごとに非常に異なる。
- 組織及び統括の問題及び、特に清掃と復帰の面でのステークホルダーの参加のプロセスに関して経験を交換する必要性がある。
- 公衆の懸念に対処し、信頼と理解を促進する形で情報を伝達する計画は必要である。



Villigen の主要な問題

複雑な放射線状況における意思決定へのステークホルダーの参加についての3回のワークショップがCRPPHにより1998年、2001年及び2003年に組織された。これらはRPコミュニティ内での最初の真剣な討議であり、次のような結論が得られた。

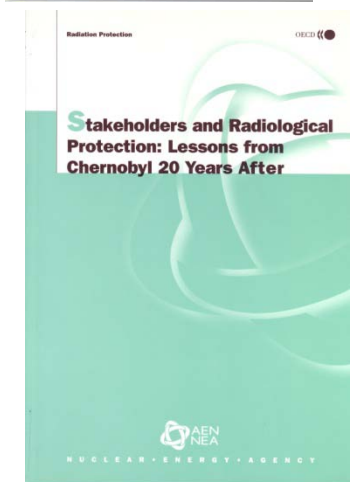
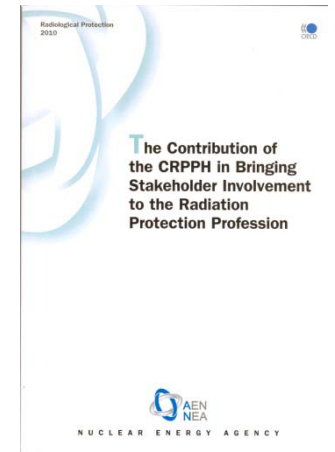
- 社会的な側面を放射線防護に統合するよりもむしろ、放射線防護が社会の決定に統合されなければならない、すなわち「放射線防護は社会のニーズに適合させるべきであり、その逆ではない」。
- 事故後の回復等の複雑な放射線状況における持続的かつ受容される決定を達成するためには、ステークホルダーの参加は必須である。



チェルノブイリ関連作業の主要な問題

CRPPH は1986年からチェルノブイリの結果の管理に携わっており、また8件の専門家の報告書を作成しており、その大まかな結論は以下の通りである。

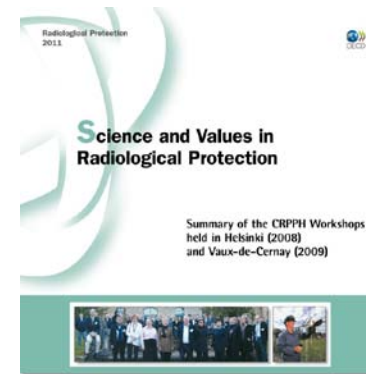
- トップダウンのアプローチはボトムアップのアプローチに進化する必要がある。
- ステークホルダーの意見を聴き、彼らと共同作業することが、信頼の再構築を助けることがある。
- ステークホルダーは問題と地上での実際的な解決法を特定するための資源である。



科学と価値の主要な問題

CRPPHのステークホルダーの討議と意思決定は3回のワークショップ(2008年、2009年、2012年)における科学と価値の側面に焦点が当てられ、以下の結論が得られた。

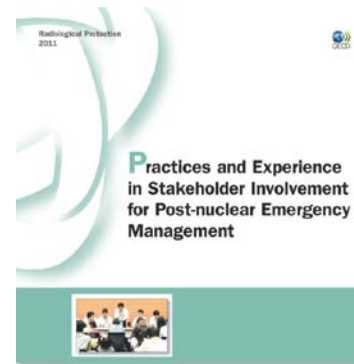
- 決定は科学により知らされるが、社会的価値によって引き出される。
- 文化的側面を考慮しなければならないが、ステークホルダーの参加の必要性は普遍的である。
- 小児の保護は普遍的目標であり、回復活動の焦点でもある。
- 低い線量の健康への影響はステークホルダーから十分に理解されておらず、また関連のステークホルダーの懸念にはより丁寧に対処する必要がある。



核非常事態後の管理のためのステークホルダーの参加に関する主要な問題

CRPPH は2010年に核非常事態後の管理へのステークホルダーの参加における実務と経験に関するワークショップを開き、次の結論を得た。

- ステークホルダーの参加は非常事態と回復管理プランニングにおいて中心的でなければならない。
- ステークホルダーの範囲の問題を取り扱うための、多岐の専門分野にわたるプロのチームが必要である。



結論

- ステークホルダーは、受容されかつ適切な決定を行うための貴重で必須の資源である。
- 放射線防護のための意思決定にステークホルダーを適切に参加させるための枠組みの作成及び実施プロセスにおける、かなりの量の国際的経験が存在する。
- ステークホルダーの参加には文化的側面が影響するが、あるレベルでのステークホルダーの参加は常に必要である。